

# 定期作況報告

平成17年7月  
(7月20日現在)

北海道立北見農業試験場

# 1. 気象経過

## 1. 気象経過

6月下旬：最高気温、平均気温は平年より極めて高く、最低気温は平年より高かった。降水量は平年より少なかった（平年比54%）。日照時間は平年より多かった（平年比188%）。

7月上旬：最高気温は平年より低く、最低気温、平均気温は平年よりやや低かった。降水量はやや少なかった（平年比64%）。日照時間は平年並であった（平年比106%）。

7月中旬：最高気温は高く、最低気温は平年並みで、平均気温はやや高かった。降水量は少なかった（平年比48%）。日照時間は平年よりやや多かった（平年比129%）。

以上のことから、この1か月間（6月下旬～7月中旬）は平年と比較して、気温はやや高く、降水量は少なく、日照時間は平年よりやや多かった。

注）降水量、日照時間についての平年値との比較表現は、各旬における過去10年間の出現値の幅に基づいているため、「平年並」に含まれる値の範囲は旬毎に異なる。

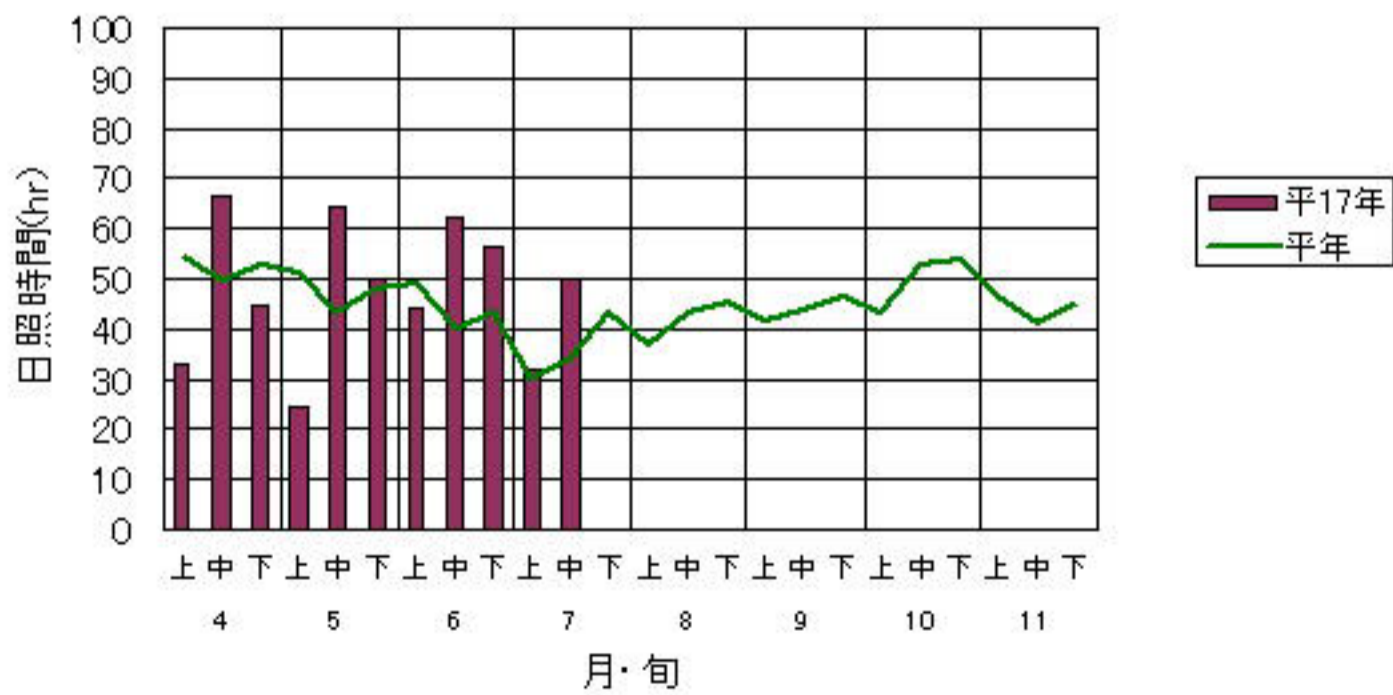
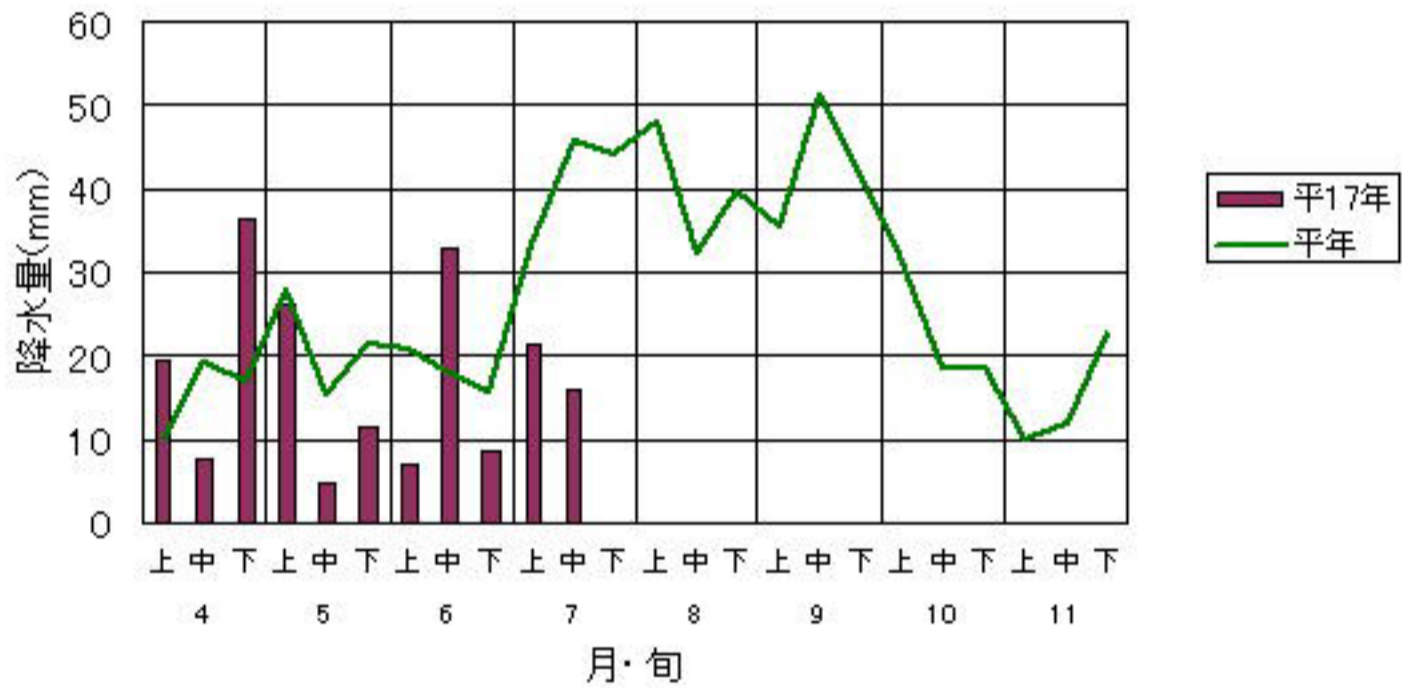
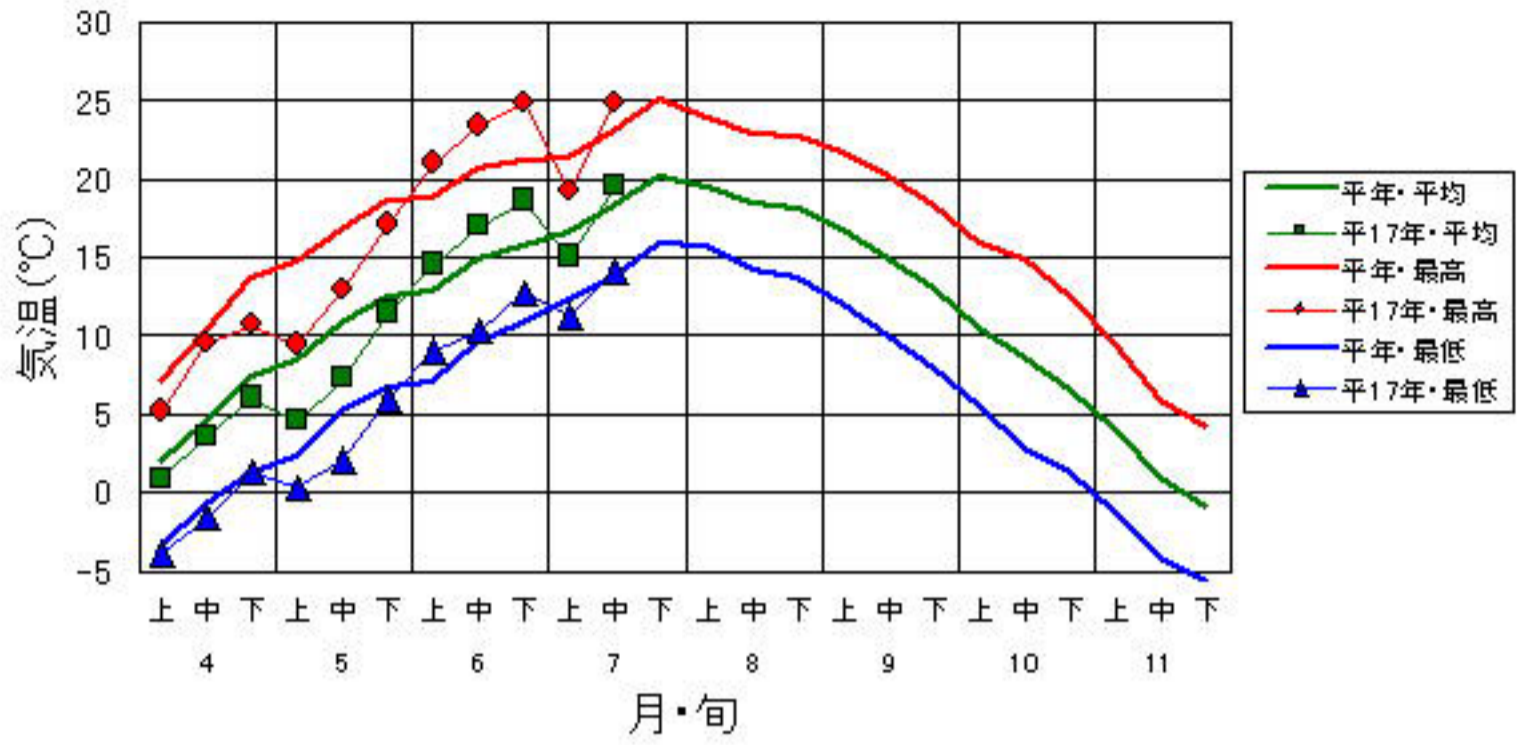
気象表

項目 月旬	平均気温（℃）			最高気温（℃）			最低気温（℃）		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
6月下旬	18.6	15.7	2.9	24.9	21.1	3.8	12.8	10.8	2.0
7月上旬	15.1	16.6	△1.5	19.2	21.2	△2.0	11.3	12.3	△1.0
7月中旬	19.5	18.2	1.3	24.9	23.0	1.9	14.2	13.8	0.4
平均	17.7	16.8	0.9	23.0	21.8	1.2	12.8	12.3	0.5

項目 月旬	降水量（mm）			日照時間（h）		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
6月下旬	8.5	15.7	△7.2	56.3	43.1	13.2
7月上旬	21.5	33.5	△12.0	31.6	29.9	1.7
7月中旬	16.0	45.8	△29.8	49.9	34.0	15.9
合計	46.0	95.0	△49.0	137.8	107.0	30.8

注） 1）観測値は、置戸町境野のアメダスデータである。

2）平年値は前10か年間の平均である。



## 2. 当場の作況<sup>注)</sup>

注) 本作況報告は北海道立北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走支庁管内全体を代表するものではありません。

### 1) 秋まき小麦 作況：やや良

事由：6月下旬および7月中旬の高温多照で生育は回復し、穂数は平年より多く、登熟は概ね順調に進んでいる。成熟期は目下のところ、平年並から平年より2日程度の遅れが見込まれる。なお、7月10、11日の降雨により「タクネコムギ」はほぼ全面倒伏し、さらに7月18日の降雨により「ホクシン」は一部倒伏している。

以上のことから現在の作況は「やや良」である。

調査項目	タクネコムギ			ホクシン			チホクコムギ			ホロシリコムギ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
稈長(cm) (7月20日)	90	95	△5	86	83	3	82	92	△10	92	98	△6
穂長(cm) (7月20日)	7.8	7.5	0.3	8.8	8.2	0.6	7.1	7.0	0.1	8.5	8.3	0.2
穂数(本/m <sup>2</sup> ) (7月20日)	857	819	38	816	694	122	793	722	71	678	629	48

注) 平年値は前7か年中、「タクネコムギ」「ホクシン」は平成14年、15年、「チホクコムギ」「ホロシリコムギ」は平成11年、15年を除く5か年の平均。「ホクシン」の播種量は255粒/m<sup>2</sup>、その他の品種の播種量は340粒/m<sup>2</sup>。

### 2) 春まき大麦(二条大麦) 作況：不良

事由：7月上旬を除いて全般的に気温は高く推移し、特に、6月下旬の最高気温は平年を約4℃上回る高温となった。降水量も平年比50%と干ばつ傾向であり、このため、出穂期は平年並で劣ったが、節間伸長が不十分となり稈長は平年を大きく下回った。また、穂数は分けつの無効化が進み平年を大きく下回った。

以上のことから現在の作況は「不良」である。

調査項目	りょうふう		
	本年	平年	比較
出穂期 (月日)	7.4	7.4	0
稈長(cm) (7月20日)	58	82	△24
穂数(本/m <sup>2</sup> ) (7月20日)	329	568	△239

注) 平年値は前7か年中、平成12年、13年を除く5か年の平均。

### 3) 春まき小麦

作 況：やや不良

事 由：6月は高温に推移したために生育が進み、出穂期は平年並となった。6月下旬以降、降水量が少なく推移し、干ばつ傾向であり、稈長、穂長とも平年より短く、穂数はやや少ない。

以上のことから現在の作況は「やや不良」である。

調査項目	ハルユタカ		
	本年	平年	比較
出穂期 (月日)	6.24	6.24	0
稈長(cm) (7月20日)	74	85	△ 11
穂長(cm) (7月20日)	8.0	8.2	△ 0.2
穂数(本/m) (7月20日)	480	501	△ 21

注) 平年値は前7か年中、平成12年、16年を除く5か年平均。

### 4) とうもろこし(サイレージ用)

作 況：やや良

事 由：6月下旬の気温が平年より高かったことなどにより生育は順調で、草丈および葉数は平年を上回っている。

以上のことから、現在の作況は「やや良」である。

調査項目	ディアHT		
	本年	平年	比較
草丈(cm) (7月20日)	166.3	124.0	42.3
葉数(枚) (7月20日)	12.2	11.2	1.0

注) 平年値は前7か年のうち平成10年、16年を除く5か年の平均。

### 5) 大 豆

作 況：やや良

事 由：平均気温は、7月上旬は平年よりやや低かったが、他の期間が平年より高く推移したため、開花は平年より4～6日早く、主莖長、本葉数および分枝数は平年を上回っている。

以上のことから、現在の作況は「やや良」である。

調査項目	トヨコマチ			トヨホマレ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
開花始 (月日)	7.16	7.20	△ 4	7.17	7.23	△ 6
主莖長(cm) (7月20日)	47.6	41.3	6.3	39.2	36.0	3.2
本葉数(枚) (7月20日)	7.1	6.4	0.7	7.1	6.4	0.7
分枝数(本/株) (7月20日)	6.0	2.6	3.4	4.7	2.2	2.5

注) 平年値は、前7か年中平成10年、16年を除く5か年の平均。

## 6) 小豆

## 作況：平年並

事由：平均気温は、7月上旬は平年よりやや低かったが、他の期間は平年より高く推移した。分枝数は平年をやや上回っているが、主茎長および本葉数はほぼ平年並である。

以上のことから、現在の作況は「平年並」である。

調査項目	エリモショウス			サホロショウス		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
主茎長(cm) (7月20日)	13.6	14.8	△1.2	13.1	14.1	△1.0
本葉数(枚) (7月20日)	5.8	5.3	0.5	5.6	5.2	0.4
分枝数(本/株) (7月20日)	1.3	0.9	0.4	2.1	1.3	0.8

注) 平年値は、前8か年中平成10年、14年および試験を中止した12年を除く5か年の平均。

## 7) 菜豆

## 作況：やや良

事由：平均気温は、7月上旬は平年よりやや低かったが、他の期間が平年より高く推移した。本葉数は平年並からやや多い程度であったが、開花はやや早く、主茎長および分枝数は平年を上回っている。

以上のことから、現在の作況は「やや良」である。

調査項目	大正金時			福勝		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
開花始 (月日)	7.4	7.8	△0.4	7.7	7.9	△0.2
主茎長(cm) (7月20日)	39.9	33.8	6.1	40.1	34.7	5.4
本葉数(枚) (7月20日)	3.5	3.4	0.1	3.9	3.5	0.4
分枝数(本/株) (7月20日)	5.3	3.5	1.8	5.1	3.0	2.1

注) 平年値は、前8か年中平成11年、13年および再播した10年を除く5か年の平均。

## 8) ばれいしょ

## 作況：平年並

事由：6月はかんばつ傾向のため茎長は抑制されていたが、高温で推移したことから生育ステージは早まり、開花始は「男爵薯」が6月29日、「コナフブキ」が6月28日で平年より1～2日早かった。その後7月に入り適度な降水があったため、茎長は6月20日調査よりかなり持ち直し、「コナフブキ」は平年より3cm低かったが、「男爵薯」は4cm高かった。

以上のことから、現在の作況は「平年並」である。

調査項目	男爵薯			コナフブキ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
開花始 (月日)	6.29	6.30	△0.1	6.28	6.30	△0.2
茎長(cm) (7月20日)	41	37	4	63	66	△3
茎数(本/株) (7月20日)	2.7	3.5	△0.8	3.0	2.8	0.2

注) 平年値は前7か年中、平成10年、15年を除く5か年の平均。

9) てんさい

作 況：やや良

事 由：総降水量は平年を下回るものの、てん菜に必要な降水量は確保され、干ばつはやや緩和された。さらに、7月上旬を除いて高温が続いたために、生育は急速に回復し、地上部の伸長と地下部の肥大は平年を上回っている。

以上のことから現在の作況は「やや良」である。

調査項目	移植						直播		
	モノホマレ			アーベント			モノホマレ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
草丈(cm) (7月20日)	58.3	54.9	3.4	54.4	53.1	1.3	54.5	51.6	2.9
生菜数(枚) (7月20日)	21.4	21.6	△ 0.2	19.7	21.1	△ 1.4	21.7	20.1	1.6
莖葉重(g/個体) (7月20日)	676	624	52	625	622	3	543	514	29
根重(g/個体) (7月20日)	311	243	68	334	271	63	167	129	38
根周(cm) (7月20日)	22.7	20.8	1.9	23.7	22.6	1.1	18.8	16.4	2.4

注) 平年値は前7か年中、直播「モノホマレ」は平成11年、16年、移植「モノホマレ」は平成10年、16年、「アーベント」は平成10年、16年をそれぞれ除く5か年の平均。

10) 牧草(チモシー)

作 況：不良

事 由：6月21日に収穫を行った1番草は、草丈は平年並であったが、乾物収量は平年の86%であった。また2番草再生時の草丈は平年よりやや低かった。

以上のことから現在の作況は「不良」である。

調査項目	ノサツ			
	本年	平年	比較	
被度(%)	2番草再生時	100	99	1
刈取日	1番草	6.21	6.17	4
倒伏程度	1番草	1.5	2.7	△ 1.2
病害罹病程度	1番草	1.5	1.3	0.2
草丈(cm)	1番草	100	95	5
草丈(cm)	2番草再生時	33	38	△ 5
生草収量(kg/10a)	1番草	2254	2843	△ 589
乾物率(%)	1番草	25.4	24.2	1.2
乾物収量(kg/10a)	1番草	573	664	△ 91

注) 平年値は前3か年の平均(耕種概要・調査項目の変更による)。

## 11) たまねぎ

## 作 況：やや良（参考）

事 由：気温は7月上旬は低温であったものの、6月下旬および7月中旬は平年より高く推移した。このため生育は順調に進み、球肥大期は平年に比べ「改良オホーツク1号」で8日「スーパー北もみじ」で3日早かった。平年と比べて草丈は高く、生葉数および葉鞘径は平年並であった。「改良オホーツク1号」は6月下旬の高温の影響を受けて、球生重、葉身生重が平年を大きく上回った。「スーパー北もみじ」も葉身生重、球生重がともに平年を上回った。

以上のことから、現在の作況は「やや良」である。

調査項目	改良オホーツク1号			スーパー北もみじ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
球肥大期 (月.日)	7.3	7.11	△.8	7.19	7.22	△.3
草丈(cm) (7月20日)	75.6	65.7	9.9	80.8	74.4	6.4
生葉数(枚) (7月20日)	9.5	8.6	0.9	10.2	10.2	0.0
葉鞘径(mm) (7月20日)	18.6	18.1	0.5	19.7	19.9	△.02
葉身生重(g) (7月20日)	94.7	80.9	13.8	122.6	96.5	26.1
球生重(g) (7月20日)	103.1	64.3	38.8	55.5	40.0	15.5

注) 平成15年に圃場を変更したため、平年値は平成15年及び16年、2カ年の平均。



最終ページ



次のページ





前のページ



先頭ページ